

千葉県中核地域生活支援センターニュースレター

ちばの地域福祉

地域になくてはならない中核に

社会福祉法人ききょう会
理事長 林 壽美子

「オーダーメイド福祉」という言葉を、千葉県地域福祉支援計画(健康福祉千葉方式)で知った時は、新鮮な驚きを感じたことを今でも覚えている。さらに「掘り起こす」「つなぐ」「ワンストップでたらい回しにしない」など、魅力的な福祉計画の始まりに心が動いた。

当法人は2006年4月から市原圏域において中核地域生活支援センター(いちばら福祉ネット)を立ち上げ、活動を続けているところだが、中核は他の相談事業所とどこが違うのかとよく聞かれる。単に相談を受けるだけではなく、こちらからも出向く、エンパワメントを引き出すなど新たな問題を見つけていることを説明している。中でも権利侵害に即対応し、個別対応と地域づくりを一体的に行っていくことが役割の中心にあることを説明している。

また、たくさんの相談所があってどう住み分けるのかという問いに対しても、住み分けるのではなく、中核は市町村を育てるという大きな役割があることを一貫して貫き、各関係機関本来の機能を強化するためにバックアップし続けた。

しかし、市町村を育てると言っても、育てられているのは私たちで、地域から多くの「お困り事」をいただき、難問を解決していくたびに成長を感じ続けてきた。実にいろいろな相談があるし、相談はなくなる。どんな小さな相談事にも懇切丁寧に、たらい回しにせず、新たな対象者、資源を見つけ出す。相談者と共に歩む中核のスタッフはいつもひたむきに、柔軟な対応を心掛け、一人一人に合った生活をオーダーメイドで請け負っている。

だから今は、地域になくてはならない中核となり、地域の「人財」となっていると確信している。

冒頭の新鮮だった各言葉は、いまや生活に溶け込んでいる。それだけ中核は地域の隅々まで浸透し、着実に福祉計画を実行しているといえる。

時は流れ、社会は変わり、相談内容も変わっていくが、相談支援はさらにバージョンアップして専門的な質の高い相談の必要性が求められてくる。

そんな地域の中で、今後も中核が作る「新しい福祉資源」を、直接的または間接的に創り出すことの歩みを止めてはいけない。前進を続けよう。

わたしのまちの地域福祉

小域福祉ネットワークによる地域福祉活動

市原市役所 保健福祉課

1 市原市地域福祉計画について

地域福祉の実現にあたっては、地域住民自身やその家族による営み（自助）を基本としつつ、その地域に住み、地域をよく知る住民相互の支え合い（共助）と、行政の福祉サービス等（公助）との連携が大切となります。

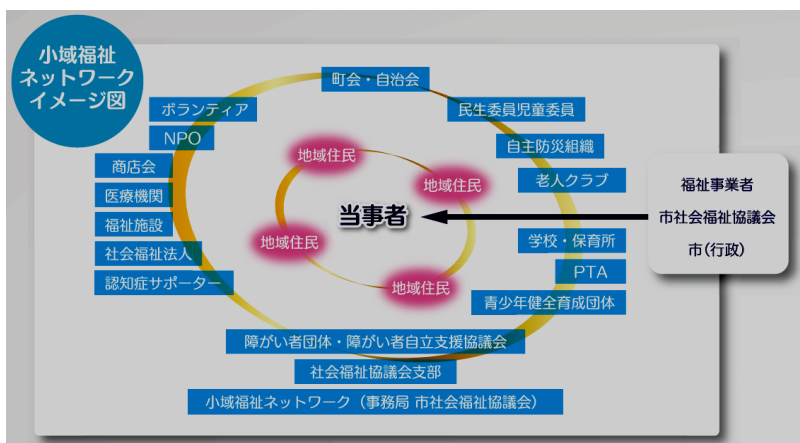
このため、市原市では「誰もが住み慣れた地域で、自立して暮らせるまち」の実現に向け、地域住民、福祉事業者等、市社会福祉協議会及び市が一体となって地域福祉の推進に取り組んでいくための指針となる「市原市地域福祉計画」を、延べ2,000人以上の地域住民が参加し、平成18年3月に策定しました。

2 小域福祉ネットワークについて

市原市地域福祉計画では、共助の一環として、町会や民生委員児童委員、ボランティアなど、地域で様々な活動をしている方々が参加する「小域福祉ネットワーク」(右図参照)を設置することとしています。

小域福祉ネットワークは、地域住民自らが把握した地域課題について、地域が中心となって、解決に向けた取組み（＝地域福祉活動）を進める場となります。

また、小域福祉ネットワークの活動範囲は、地域住民に最も身近な日常生活圏である小学校区を基本としています。（平成24年7月末現在で、市内46小学校区のうち、30小学校区で設置済み）



3 地域福祉活動の例

市内各地の小域福祉ネットワークでは、高齢者への見守りや、高齢者と児童との世代間交流、健康教室の開催といった福祉的な活動に加え、地域内パトロールや通学路見守りといった防犯活動、避難路確認などの防災活動、地域交通問題の協議、小中学校と地域との連携など、様々な取組みが進められています。



写真は、地域福祉活動拠点での歯科衛生健康教室



写真は、バリアフリー推進のため、白杖や車イスを用いた「まち歩き」体験

ちば・元気印！～こんなひと、見つけた～

NPO法人 野花の会

野花の会は、2006年5月に発足し、同年8月にNPO法人の認定をされました。

野花の会とは、山武郡市内の障がいのある方やその家族、その他手助けを必要とするの方々に対して、「相談支援や障がい児通所支援」等に関する事業を行っています。

誰もが地域生活において、「あたりまえ」に安心して暮らしていける社会福祉に寄与する事を目的としています。

障がい児通所支援（児童デイサービスいちご・すみれ）では

成長や発達に心配のあるお子さんが学校や家庭以外の場で、地域と関わり、友だちと育ちあう場を提供し、社会的なサポートする事を目指しています。

- ・遊びを通して、ルールや人との関わり方、コミュニケーション力を育てていきます。
- ・家庭のように安心してゆったり過ごせる場で、豊かな心を育てていきます。
- ・地域の方々と一緒に楽しい時を過ごせる場をつくっていきます。

相談支援（たけのこ）では

障がいのある人やその家族、またその方々の介護を行っている人等の日常生活全般に関する相談を受け付けています。

- ・情報の発信 どこにどんな障害福祉サービス事業所があるかお知らせする。
- ・サービス利用計画の作成。（継続して相談をうかがったり、利用計画の修正をしたりする）
- ・事業所まで来られない方には訪問してお話しをうかがう。



室内でまったりタイム



「卒業を祝う会」にて



カラオケで大盛り上がり

問い合わせ先

NPO法人 野花の会 理事長 野口 よし子
児童デイサービスいちご・相談支援たけのこ

TEL FAX 0475 - 82 - 6353

児童デイサービスすみれ

TEL FAX 0475 - 82 - 8001



ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

第8回高次脳機能障害リハビリテーション千葉懇話会

- [主 題] 知りたい! 高次脳機能障害の認知リハビリテーション
[内 容] 今日における認知リハビリテーションの効果と課題
[日 時] 平成24年9月20日(木) 19:00~21:00 (受付時間18:30~)
[場 所] 千葉市文化センター アートホール
[参加費] 無料
[参加申込] FAXまたはE-mailにて以下の内容を記入のうえ、お申し込みください
氏名 所属機関名・連絡先 職種等 所属機関の市町村
[申込締切] 9月13日(木)
[申込・問合せ先] 高次脳機能障害リハビリテーション千葉懇話会 事務局
千葉県 千葉リハビリテーションセンター高次脳機能障害支援センター
〒266-0005 千葉市緑区誉田町1-45-2
: 043-291-1831 FAX: 043-291-1847
E-mail: chiikirenkeibu@chiba-reha.jp

第39回国際福祉機器展 H.C.R.2012

- [内 容] ハンドメイドの自助具から最先端技術を活用した福祉車両まで、世界の福祉機器を一堂に集めた国際展示会が行われます。また、シンポジウムやセミナーなども行われますので、ぜひご参加ください。
[日 時] 平成24年9月26日(水)~平成24年9月28日(金) 10:00~17:00
[場 所] 東京ビッグサイト東展示ホール
東京都江東区有明3-11-1東京ビッグサイト
: 03-5530-1111(代表)
[参加費] 無料・登録制(一部プログラムは有料です)
[ホームページ] <http://www.hcr.or.jp>
[申 込] ホームページから事前登録ができます。(当日受け付けも可能)
[問合せ先] 一般社団法人 保健福祉広報協会(H.C.R2012事務局)
〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル5F
: 03-3580-3052 FAX: 03-5512-9798

発行元: 千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局: 海匠ネットワーク(海匠圏域) 旭市イの1775

TEL: 0479-60-2578 FAX: 0479-60-2579

編 集: いちはら福祉ネット(市原圏域)市原市東国分寺台3-10-15 TEL: 0436-23-5300 FAX: 0436-23-5225

内容についてのお問い合わせは、いちはら福祉ネット(担当: 高地)までお願いします。